

社会福祉法人 岩手更生会中期活動計画

基本理念：いかなる人も人として認められる社会の実現
計画期間：2017年～2026年の10年計画
計画の性格：本計画に基づき、各年度の業務計画で具現化
 【前期（H29～R元年）、中期（R2～R5年）、後期（R6～R8年）】

現 状

- 就労移行**
 - 利用定員：15人/利用実績：14人弱
 - 支援学校等の影響で利用者増は期待薄
 - 農耕等中心の支援メニュー
- 生活介護**
 - 利用定員：45人/利用者：45人
 - 障害が重く、介護度の高い利用者の増
 - 多動、コミュニケーション不能等発達障害を併発する利用者の増
 - 60歳超えの利用者の増
- 共同生活援助**
 - 10施設：54人利用
 - 施設入所から移行、日中活動として生活介護を利用するケースもあり
 - GH専用として新築され、賃借している施設2棟
 - 市街地にあるが老朽化している建物あり
- 相談支援**
 - 106件/専任職員1名、兼務職員2名で対応
 - 訪問調査、連絡調整等業務量が増大
- まめ工房**
 - 利用者22人が従業員
 - 豆腐、みそ製造ほか農耕作業を請負
 - 豆腐等の販路拡大の努力中、売上増は厳しい
 - 宅配者の高齢化等により減少傾向
 - 利用者に最低賃金は支給、経営は利用者安定
- 施設建物等**
 - 建設後20年経過、屋根、外壁、機器設備等経年劣化

主な課題

- 就労先が求める能力に対応できるメニュー等要検討
- 障害程度、男女割合に対応した居室数、定員、設備等要検討
- 日中活動領域の拡大、活動メニュー、利用者ごとのサービス強化等要検討
- 就労移行支援や生活介護利用者の地域移行推進のため、新たな施設要確保
- 法人全体として本事業運営を要検討
- 新たな製品開発、販路拡大、マーケティングの充実等要検討
- 外壁、屋根再塗装、補修
- ボイラー機器更新
- 浴室改修
- 重度や高齢利用者向け居室改修
- 重度や高齢利用者向け日中活動スペースの拡充整備
- 居室等改修、冷房機器整備
- 書庫の整備
- まめ工房、会議室、事務室冷房機器の整備

検討事項

前 期	中 期	後 期
○ 居室への冷房機器整備 (H30)	○ 利用者拡大方策の検討	○ 利用者生活習慣の確立、作業訓練習熟度の客観的・科学的評価の研修と検討
○ 共生型サービスへの対応検討	○ 居室の改修整備 ① 新たな居住棟を新築、生活介護用居室を改修し、組み合わせによる整備 ② 全居室を改修し、重度・高齢利用者用へ、就労移行支援者用の居室（棟）整備	○ GHへの移行の検討 ① 専用の新たな建物の賃借 ② 法人独自の整備 ③ 職員による24時間対応
○ GHの必要数の確保	○ 重度・高齢利用者用GHの職員による夜間対応体制の検討	
○ 共同生活援助事業と併せた課制又は独立事業所の検討		
○ 新たな製品開発・販路拡大	○ 人材の確保・育成 ○ 製品宣伝方法多様化の検討	
○ ボイラー機器更新 (H30)	○ 浴室改修 (R元)	○ 屋根補修 (R2)
○ 居室等冷房機器整備 (H30)	○ 外壁補修 (R3)	○ 重度や高齢利用者向け居室・日中活動スペース拡充整備
○ オートビル改修 (R元)	○ 書庫の整備	○ まめ工房冷房機器整備

その他の取組

- 業務執行理事の設置 (R元)
- 業務課の施設支援課 (仮)、地域支援課 (仮) 2課制の検討 (R2～R3)
- 上記地域支援課を事業所 (室) に格上げする検討 (R2～R3)
- 研修の体系化、各種メニューの検討 (研修企画委員会：H30～)

新たな事業展開

- 就労継続支援B型事業所の開設 (重度や高齢利用者向け居室・日中活動スペース拡充整備以降：後期)
- 農業法人格の取得 (後期)
- オーパでの事業展開 (プログラムによる地域住民の活動支援：中期～後期)
- 地域貢献の推進 (生活困窮者自立支援法の就労準備支援、生活困窮者安心サポート事業：H30～) (中期～後期)

その他の課題

- サービス第三者評価の実施
- 職員処遇における職階性、昇任・昇格基準の整備

事業の推進

事業項目毎の工程表により、毎年度事業計画で具体化

事業の財源

繰越剰余金 (約1億6千万円)、国庫補助金、民間助成金など